

予測結果

資源循環型施設が稼働しても、現状の値から数値はほとんど変化しない

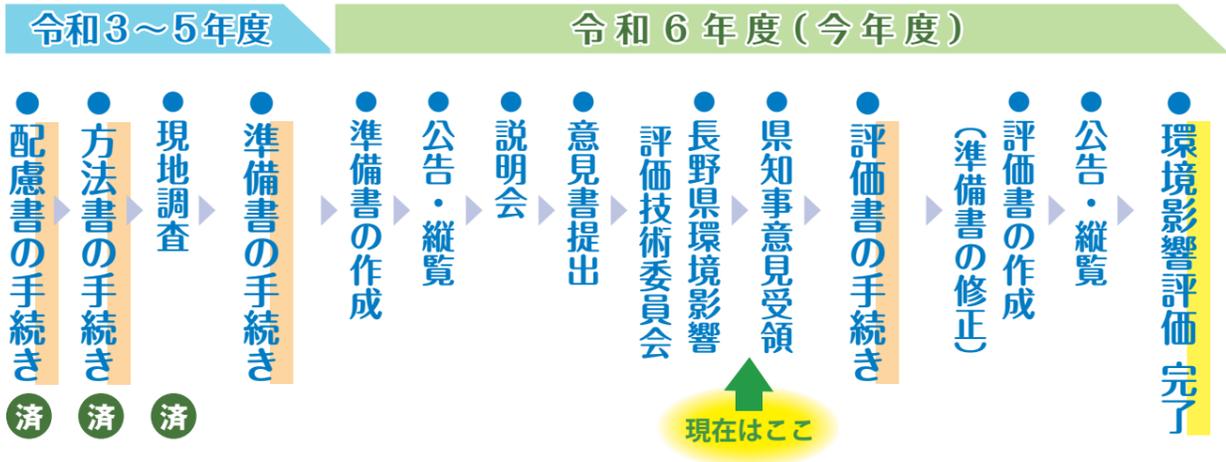
項目	現状の値(年平均値) ※測定結果の最大値	予測値 (年平均値)
二酸化硫黄(ppm)	0.001	0.001072
二酸化窒素(ppm)	0.005	0.005040
浮遊粒子状物質(mg/m ³)	0.014	0.014024
水銀(μg/m ³)	0.0019	0.001972
ダイオキシン類(pg-TEQ/m ³)	0.019	0.019240

※環境影響評価準備書の詳細は、上田地域広域連合のホームページで公開しています。



上田地域広域連合ホームページ

環境影響評価の手続きと今後に向けて



・最優先に取り組みを進めてきた「安全・安心な施設」については、準備書により、科学的な観点からお示しすることができました。

・上田地域にある3つのクリーンセンターは老朽化が進み、運転停止を伴う緊急対応が必要になることも懸念されます。

・上田地域広域連合および構成市町村では、住民生活に大きな支障をきたす事態を避けるため、環境影響評価が完了する令和6年度中の資源循環型施設の正式な建設地決定を目指して、大詰めの取り組みを進めています。

・資源循環型施設の早期建設に向け、丁寧な説明を重ねてご理解を得てまいりますので、市民の皆さまのご協力をお願いします。



☎ 資源循環型施設建設関連事業課 ☎71・8082 ✉ junkan@city.ueda.nagano.jp

資源循環型施設整備事業の概要

■施設概要

項目	内容
焼却対象物	可燃ごみおよび災害廃棄物
焼却処理能力(炉構成)	144 t/日(72 t × 2 炉)
処理方式	全連続式ストーカ式焼却炉(24時間連続運転)
煙突高さ	59m
環境目標値(排ガス)	法規制値より厳しい自主基準値
プラント排水	公共水域へ排水しない
余熱有効利用	場内利用、場外利用、発電

■法規制値と自主基準値

項目	単位	法規制値(許容限度)	自主基準値	上田クリーンセンター自主基準値
ばいじん	g/Nm ³	0.08	0.01	0.02
硫酸化物(SOx)	ppm	(約4,000)	30	100
窒素酸化物(NOx)	ppm	250	50	150
塩化水素(HCl)	ppm	430	30	200
ダイオキシン類	ng-TEQ/Nm ³	1	0.1	1
水銀	μg/Nm ³	30	30	50

※法規制値や既存施設の基準値よりも厳しい自主基準値を設定



資源循環型施設の整備に向けた取組

上田地域広域連合および市では、3つのクリーンセンター(上田・丸子・東部)を廃止し、1つに統合する「資源循環型施設(統合ごみ焼却施設)」の建設に向けて取り組みを進めています。

環境影響評価の準備書を取りまとめました

上田地域広域連合では、清浄園用地を建設候補地として進めている資源循環型施設の整備に向けて、長野県環境影響評価条例に基づく環境影響評価の準備書を取りまとめました。

環境影響評価の準備書は、令和4～5年に実施した現地調査などの結果を基に、施設が環境に与える影響を予測し、環境保全措置が適切か評価した結果をまとめたものです。

環境影響評価・準備書の結果

準備書の結果

資源循環型施設の工事期間および稼働開始後も、安全・安心な生活環境を守ることができる

調査結果	・対象とした全ての項目について、基準を満たしている。
予測結果	・資源循環型施設の建設工事期間および稼働開始(供用)後も、対象とした全ての項目について基準を満たすことができる。
評価結果	・資源循環型施設が環境へ与える影響は小さく、将来にわたって、安全・安心な生活環境を守っていくことができる。
環境保全措置	・各項目について適切な対策を行い、環境への影響をさらに低減させる。 ・地域住民とともに公害防止の枠組を創り、周辺環境の監視などを継続的に行い、将来にわたる安心へとつなげていく。

環境保全措置の例

項目	主な環境保全措置	効果
煙突、排ガス	・法令などに比べて厳しい自主基準値の設定と順守 ・適正で信頼性の高い排ガス処理設備の導入 ・常時監視、法規制に基づく定期的な測定による適正な管理	大気汚染物質濃度の低減
施設の稼働	・機器類の屋内への収納・設置 ・騒音の大きな機器に対しては、内壁に吸音材を設置	騒音の低減
施設が存在	・建物の高さ・面積の抑制による景観への配慮 ・周辺環境と調和のとれた親しみやすいデザインの採用	周辺環境との調和、圧迫感の低減
関係車両の走行	・廃棄物搬出入車両などが集中しないよう搬入時間帯を調整 ・エコドライブの指導、周知	大気汚染物質濃度・騒音・振動の低減